NEWS　RELEASE

国土交通省

国土交通省 近畿運輸局

問い合わせ先
（所属）　海事振興部船員労政課
（担当）　平田、長原
（電話）　06-6949-6435

令和４年１２月２７日

「海の教室」～サンタマリア体験乗船会　と 海・船のお話会～

を開催しました！

近畿運輸局は、公益財団法人近畿海事広報協会との共催により、海事関係団体等からの後援・協力を受けて、「海の教室」～サンタマリア体験乗船会と海・船のお話会～を開催しました。

この行事は、海事思想の普及活動の一環として、将来を担う若年層を対象に、海洋国家「日本」にとって「海」がいかに大切か、そして普段意識することの少ない私たちの生活と「海運」の深い関係や、それを担う「船員の仕事」について理解を深めてもらうことを目的として、実施しました。

本企画は、これまでも小学生を対象に実施してきましたが、今回は初めての試みとして、中学生を対象に実施しました。

日　　時：令和４年１２月１日（木）
場　　所：大阪港内及び大阪市立築港中学校
対 象 者：大阪市立築港中学校１～３年生４６名及び引率教諭１１名
講　　師：近畿内航船員対策協議会 特別顧問 上窪 良和 氏
講義内容：海の大切さと船員の仕事
配布パンフレット等：
・「船の仕事ってなに？」（日本内航海運組合総連合会）
・「船ってサイコー！」（一般社団法人日本船主協会）

https://c2sea.jp

配布先：海運関係業界プレス

「海の教室」サンタマリア体験乗船会と海・船のお話会を実施しました。

■実施概要

日　　時：令和４年１２月１日（木）１０：５０～１５：２０
場　　所：大阪港内及び大阪市立築港中学校
　　対象者等：大阪市立築港中学校１～３年生４６名及び引率教諭１１名
実施内容：①サンタマリア号大阪港内クルーズ
　　・船長講話　・救命胴衣着用体験　・ロープワーク学習
　　②講話「海の大切さと船員の仕事」
　　講師：近畿内航船員対策協議会特別顧問（田渕海運(株)顧問）上窪良和　氏
主　　催：近畿運輸局、公益社団法人近畿海事広報協会
協　　力：近畿旅客船協会、公益社団法人大阪港振興協会、
　　大阪水上バス株式会社、近畿内航船員対策協議会

■内　容

①　サンタマリア号大阪港内クルーズ

当日は天気に恵まれ、穏やかな日差しに包まれながらのクルーズとなりました。

また、当日は大阪市港区の山口照美区長が乗船され、「海に近い場所で生活している皆さんには、今回の体験をきっかけに、少しでも海に興味を持ってもらいたい」とご挨拶していただきました。

挨拶後、まずは出港前に学年ごとに３つのグループに分かれ、船長講話、救命胴衣の着用体験、ロープワーク学習の船内行事を実施しました。

船長講話では、サンタマリア号はコロンブスがアメリカ大陸へ到達した際に使っていた船の名前であり、コロンブスのサンタマリア号の約 2 倍の大きさで復元された船であることなどを紹介しました。そして、命を守るための設備の一つである救命胴衣の着用体験や、船乗りの基本であるロープワーク学習においては、乗組員に実演をしてもらいながら、生徒たちは真剣に取り組んでいました。

船内行事が終了し、出港後は自由時間です。生徒たちは船内を散策したり、室内でくつろぎながらクルーズを楽しむなど、思い思いに船旅を楽しんでいました。

②　講話「海の大切さと船員の仕事」

大阪港内クルーズの後は、近畿内航船員対策協議会特別顧問の上窪講師より、「海の大切さ」を知るために、普段目にすることや接する機会が少ない「海運」が、どのような形で私たちの生活に関わっているかを説明しました。輸入品目の上位についてクイズ形式で出題すると、生徒たちは積極的に回答し、石炭や石油、鉄鉱石といった品目を正解していました。また講師からは、石炭を使って発電や製鉄を行うなどの具体例を示し、海運により輸入している資源が、どのように生徒たちの生活の役に立っているかをわかりやすくお話しされました。

そして、これらの資源は全て船で運ばれていて、船が止まってしまったら、今と同じように暮らしていくことはできなくなるということを聞き、生徒たちは海運がとても大切なものだと実感してくれたと思います。

次に、海運は空運と比べて大量輸送が可能であるという強みがある一方、速度が遅く輸送に時間を要する弱みがあることを説明しました。そのため、船員は何日も船に乗ったままになり、「船員の仕事」は、仕事と生活が同じ場所となる特殊な働き方であることを紹介しました。

さらに、船内における航海と機関という２つの役割をそれぞれ説明し、特に航海について現在では船の位置を GPS により確認していますが、以前は天文航法を用いて計測していたこともあわせて紹介しました。

講師から講義中にさまざまな出題をする中で、生徒たちの回答により教室が笑いに包まれる場面もあり、講義は終始穏やかな雰囲気の中で終了となりました。

今回、サンタマリア号に乗船したことや船長経験者の講話を聞いたことにより、生徒たちには海や船員の仕事を身近に感じてもらえたと思います。近畿運輸局では、関係団体等と連携し、これからも子ども達のために本取組を行っていきたいと考えています。

（近畿運輸局　海事振興部）